

雲外蒼天

No. 16

ケアレスミス撲滅大作戦（その1）

みなさんはケアレスミスの多い方ですか？

ケアレスミスとは辞書によると、「《careless mistake の略》不注意による誤り。軽率なまちがひ。」となっています。数学でいえば、いつの間にかマイナスの記号がなくなる。数字の2が3に変わっている。計算は合っているのに、答えを書く段階で間違えた（ひとつ前の問題の答えを書いた）などです。



一番問題なのは、試験の後などに「私はわかっていたのに、つまらないミスで点を落とした。だから大丈夫なのだ。」と言っている人です。今ミスを犯した人が、本番でミスを犯さない保証はあるのでしょうか？本番では普段より緊張の度合いが高まります。実力の8割ぐらいしか発揮できないという人もいます。だから、今できない人は本番でもおそらくできないのです。もちろん人間ですから、完全にミスがなくなることはありません。しかし、ミスが多い人（ミスを犯しやすい人）と少ない人（ミスをあまり犯さない人）があるのは確かです。実際、1点の違いが合否を分ける（つまりケアレスミスがその高校に合格するかどうかを決める）というケースもあります。いつまでも「私はわかっているけど、ミスで点数を落としただけ」と考えている人は、この際考えを改めた方がいいと思います。なぜならいくら難しい問題が解けても、簡単な問題をミスで落としてしまえば、意味がありません。難しい問題の5点も、簡単な問題の5点も同じ5点には変わりがないからです。

ケアレスミスをなくすためにはどうすればいいのでしょうか？

それではケアレスミスの防止法として、実際に答案を作るとき注意すべき事を書きます。

1. 答案を丁寧に作る。

①空白を十分取り、改行を入れて書く。また濃い鉛筆（シャープペンシル）で、ゆっくり丁寧に書く。

（ゴチャゴチャ詰まった答案は見てもらう人に失礼だし・・・場合によっては減点されたり、採点が厳しくなる・・・そもそも自分で間違いやすくなる）

②数式のみでなく、途中経過を日本語できちんと書く。

（「仮定より」「2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから」など・・・中学生の答案は言葉が少ない）。

③式に番号を付ける。（①②など）

④どの公式を使ったかを明らかにする。（「中点連結定理より」など）

⑤確率などで実際に書き上げてみる場合には、順序よく書くことを心がける。

（辞書的配列、小さい順、大きい順）

「答案を丁寧に作る。」・・・これが一番重要な事だと思います。

丁寧な字で書くというのも基本です。「きれい、きたない」は個人差がありますが、「丁寧に書く」というのは努力すれば誰でもできるからです。